



## 一貫コース通信

### コロナ禍に思うこと

私たちは自分の体験した出来事や国内外のニュースについてなど、普段から様々なことを多くの人と会話している。会話の中で自分の意見や気持ちを他の人へ伝えるために、言語を用いるが、皆さんが使用する言語には文字化できるものと文字化することが難しい言語がある。その文字化することが難しい言語のことを“パラ言語”という。

では具体的に、“パラ言語”とはどのような言語なのか。例えば、先日お亡くなりになられたダチョウ倶楽部の上島竜兵さんを代表するネタとして、「押すなよ。」というネタがある。熱湯風呂に入ろうとする上島さんが、後ろから見守る肥後さんとジモンさんへ向けて、2人を指差しながら「絶対に押すなよ。」と念押しをする。言葉通り、2人が上島さんを押さずに見守っていると、上島さんが「何で押さないんだよ。」と憤るネタがあった。上島さんの「絶対に押すなよ。」には、「必ず押せよ。」というメッセージが込められているが、これは文字だけではわからない。上島さんが発する声の抑揚やセリフの間の取り方、ジェスチャーなどから「絶対に押すなよ。」の裏にある本音を読み取るというネタであったのだ。

つまり、会話では文字化されるものだけでなく、文字の周辺にある情報が非常に大切であるということである。私自身も連絡手段としてLINEなどのメッセージを利用するが、文字のみの情報だと伝わらないことや勘違いされることも多々ある。勘違いされやすい言葉を利用すると、思わぬトラブルへと発展する。下の会話文を見てほしい。

A子：私のせいで迷惑かけちゃってごめん。

B子：気にしないで。

C子：そうだよ。A子は友達じゃない。

B子やC子は、「親友同士なんだから、気にしなくてよい。」という意味で使っているが、A子がパラ言語を間違えて読み取ると、B子やC子から「あんなに迷惑かけるなんて、A子なんて友達じゃないから。」という意味にもとられてしまう。会って話していれば、B子やC子の会話のイントネーションや、抑揚のつけ方などのパラ言語により、A子は勘違いしないかもしれない。本当の人の気持ちを知るためには、人と人が向き合っただけのキャッチボールをすることが大切なのである。

このコロナ禍で、お互いマスクをして会話したり、オンラインで会話したりするなどの機会が増えている。どうしてもパラ言語の情報が不足し、自分が伝えたいことが相手にうまく伝わらないことが多い。また、自分の気持ちを伝える手段として、SNSやインターネットを利用することは、利便性がよく、頻繁に使いがちである。しかし、自分や他の人の本当の気持ちを理解するためには、言語情報が不十分である。本当に他者理解を深めるために、SNSやインターネットの表面上の付き合いでなく、しっかりと顔を合わせ、会話を重ねていきたいものである。

